地域再生計画（地方創生道・汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	石川県	事業実施主体	加賀市	地域再生計画名	「豊かな地域資源を活かした魅力ある観光都市づくり」計画
計画期間	平成２７年度～令和元年度	評価責任者	石川県農林水産部森林管理課森林資源育成GL 小 島 秀 博、加賀市建設部長　嶽野一義		

	指標		基準値	基準年度	中間目標値	年度	中間実績	最終目標値	基準年度	最終実績	事後評価	達成状況 指標総数	達成数	最終目標値の実現状況に関する評価
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標１	道路整備による拠点地区へのアクセス改善	10分	H26	－	H29	10分	7分	R1	7分	○	6	4	計画どおり道路改良工事を行うことができ、拠点地区へのアクセス性が改善された。
			35分	H29	－	H29	35分	28分	R1	35分	×			計画路線上において、用地交渉が難航しており交渉を続けているものの現在のところ買収の見込みが全くついていない状況である。そのため、道路が開通しておらず、事後評価に至っていない。現在は用地交渉と並行して、R31年度から加賀市の単独予算において事業認定申請手続きの準備を進めており、土地収用、当該箇所の工事を含め令和4年度中の完成を目標として事業を進めている。
	指標２	林業の振興と地域環境の改善	5.5ha	H26	5.8ha	H29	6.7ha	6.7ha	R1	6.7ha	○			森林施設へのアクセス性が向上し、目標を十分達成することができた。
	指標３	温泉地、観光拠点施設へのアクセス道路の安全性確保、交通危険箇所の解消	7箇所	H26	3箇所	H29	3箇所	0箇所	R1	0箇所	○			計画通りに歩道整備、舗装修繕など危険箇所解消を図るための工事を実施することができた。
	指標４	定住人口減少の抑制	△1.2%	H26	△1.2%	H29	△1.1%	△1.2%	R1	△1.2%	○			継続した取り組みにより定住人口減少の抑制に寄与することができた。
	指標５	汚水処理人口普及率の増加	67.5%	H26	68.8%	H29	69.4%	70.0%	R1	70.0%	○			農業集落排水整備と合併処理浄化槽整備を進めたことにより当初の目標を達成し、水質保全に寄与することができた。
	指標６	観光入込客数の増加	198万人	H26	209万人	H29	198万人	220万人	R1	197万人	×			事業年度後半における台風や大雪などが的要因が大きく影響したと考えられる。H30年冬の大雪で交通機関が麻痺したことにより、1~2月には前年比約30000人減少し、H31年独の大型台風により北陸新幹線が運休するなど大きな被害を受け、首都圏からの入込客数が約15000人減少した。これらは、当月のみならずその後も風評的な影響を及ぼし、当該年度の入込客数減少の大きな要因となった。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標１													
	指標２													

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容） 計画	中間年度（H29）	最終実績	事業の進捗状況に関する評価
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	5.37km	3.08km	4.75km	市道整備については、一部整備（C-4 L=620m）を除き、R1年度末までに完成することが出来た。
	林道整備事業（整備延長）	1.20km	0.28km	0.58km	林道整備については、H29年度に比べ整備率が25%に向上したことで森林施設への更なるアクセス向上につながった。
	汚水処理施設整備事業	3.07km	3.07km	3.07km	管渠築造工事については、平成29年度末までに完成した。
その他の事業					
計画外で独自に実施した事業	加賀市観光戦略	北陸新幹線金沢開業により、首都圏からの来訪者が金沢エリアに増大するタイミングを好機と捉え、加賀市への入込客数を最大化するための戦略を３温泉地を中心に地域全体で推進			北陸新幹線金沢開業後における首都圏をはじめとする都市圏への誘客プロモーションを強化した結果、平成27年には観光入込客数が21万人増となり、特に首都圏からの来訪者は2.4倍に増加した。その後、開業効果が落ち着きを見せはじめ、年々微減傾向となり、H30年冬の大雪や令和元年の大型台風などの自然災害の影響により厳しい状況が続いている。 H29年に策定した第2次観光戦略プランにおいては、地域の魅力づくりを推進し、北陸新幹線開業効果を維持させながら、インバウンド観光の更なる推進を図ることとしていたが、全国的な国内旅行の低迷とインバウンド観光の伸び悩みなどにより観光入込客数を目標どおり増加させることができなかった。 今後に向けては、R2年度に策定する第3次観光戦略プランにおいて効果的な観光激策を展開することとしている。
	加賀市景観整備事業	景観法の規定に基づく必要な施策を実施するとともに、本市固有の景観が市民の共有する貴重な財産であるため、歴史や文化を尊重し、自然と調和した良好な景観を実現することを目的に、景観整備を図る事業については補助金を交付			景観整備地区（8地区）は、加賀市景観計画において重点地区に指定しており、外観修景の助成制度の活用により観光地の魅力向上に繋がっている。また、景観セミナーを民間事業者と共同で行い、地域住民が景観について学び、考える場を提供した。市民・市協働で行うことにより、景観形成を継承していく効果があり、魅力的な地域になっていくと考えられる。。
	加賀市まちづくりファンド事業	大聖寺地区は、江戸時代の町割がそのまま残り現在も城下町としての面影を残す町並みが形成されており、地内に残る戦前までに建てられた伝統的な建物は、歴史的景観を形成する要素であるほか、良好な住居環境の創出を実現できる地域の財産である。その財産を積極的に再生・活用することを目的に実施する事業については補助金を交付			建築物（町屋）の外観の修繕や構造の補強、賑わい創出に貢献する施設に積極的に支援を行ったことにより、地域の賑わい創出に寄与したと考えられる。また、大聖寺地区のイベントである「わが家の家宝展」に町屋の再生事例などを紹介したパンフレットを配布し、地域住民に補助制度の周知を図った。
	下水道の普及・啓発と加入促進	河川や湖沼の水質浄化のための下水道整備の必要性及び加入の大切さを市民一人一人に理解してもらい、協力する意識を定着させるために広報誌、ホームページ、ケーブルテレビ等での啓蒙活動を行い、個別訪問及び新規の加入促進支援制度による下水道の加入促進を実施する			下水道の日、浄化槽の日に合わせて広報誌にて啓発を行い、ホームページ上では各種制度紹介の記事掲載をを行った。また、下水道等への加入については、戸別訪問を実施しており、一定の効果があったと考えられる。

④評価方法	片山津、山代、山中の観光協会と市で達成状況を評価する検討会を開催した。
⑤事後評価の公表方法	加賀市HPにて公表
⑥計画全体の総合評価	本計画は、地域の課題である急速な少子高齢化への対応や定住人口の減少を抑制することで地域に活力を取り戻し魅力ある観光都市づくりを行うことである。これらの課題を克服するために市道や林道整備によるアクセス性や利便性の向上による人・モノの交流促進や汚水処理整備による健康で快適な生活環境改善に取り組んできた。その結果、各拠点地区へのアクセス改善や危険個所の解消さらには汚水処理人口普及率の増加による生活環境が改善したことで少子高齢化への対応や定住人口減少抑制に大きく貢献することができた。今後は、地域の特徴である観光産業の魅力を向上させ、更なる加賀市の発展につなげていきたい。
⑦今後の方針等	これまで実施した地域再生計画の効果をさらに高めるために、これからも市道整備と林道整備を一体的に実施し、当市が保有する自然や温泉などの特性を活かした観光都市加賀市を継続して目指していく。